6　帳簿の読取

最近の全商簿記３級では、主に第４問で帳簿の読取が出題されています。帳簿の読取は、与えられた帳簿から、解答を推定する問題です。総勘定元帳と補助簿の関係、補助簿と補助簿の関係に注意して下さい。

また、出題頻度は乏しいのですが、為替手形が出題されることがありますので、ここで補足いたします。

試験対策問題６－１　**四国商店（個人商店）における次の勘定記録と当座預金出納帳から、（ア）と（イ）に入る金額を求めなさい。ただし、借越限度額を200,000円とする当座借越契約を結んでいる。**

当　座　預　金

1/1	前期繰越	100,000	1/3	仕　　入	100,000

当　座　借　越

1/5	売　　上	45,000	1/3	仕　　入	（　　ア　　）

売　　　　上

			1/5	当座借越	45,000

当 座 預 金 出 納 帳

日	付	摘　　要	預　入	引　出	借または貸	残　高
1	1	前月繰越	100,000		借	100,000
	3	A商店から商品仕入 小切手＃35		（　　　）	貸	60,000
	5	B商店に商品売上	（　　　）		（　）	（　イ　）

・解答　（ア）60,000円　　　（イ）15,000円

・解説

（ア）について

当座預金出納帳の１月３日の残高が貸方残高60,000円であることから、１月１日の借方残高100,000円（資産としての当座預金）と１月３日の残高が貸方残高60,000円（負債としての当座借越）の合計が、１月３日の仕入による小切手振出（引出）160,000円であることがわかります。したがって、160,000円のうち、100,000円は「当座預金」勘定（資産）の減少、差額の60,000円は「当座借越」勘定（負債）の増加として処理されます。したがって、（ア）の金額は60,000円となります。

（イ）について

「売上」勘定（収益）の１月５日の金額が45,000円（貸方）より、１月５日の当座による売上の金額は45,000円とわかりますので、当座預金出納帳の１月５日の「預入」に該当する金額は45,000円となります。したがって、当座預金出納帳の１月５日の残高は60,000円－45,000円＝15,000円（貸方）となります。

なお、本問における仕訳は以下となります。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/3	**仕入**	**160,000**	**当座預金**	**100,000**
			当座借越	**60,000**
1/5	**当座借越**	**45,000**	**売上**	**45,000**

また、各勘定と当座預金出納帳の空欄を記入したものは以下となります。

当　座　預　金

1/1	前期繰越	100,000	1/3	仕　入	100,000

当　座　借　越

1/5	売　上	45,000	1/3	仕　入	**ア 60,000**

売　　上

			1/5	当座借越	45,000

当 座 預 金 出 納 帳

日付		摘要	預入	引出	借または貸	残高
1	1	前月繰越	100,000		借	100,000
	3	A商店から商品仕入 小切手＃35		(**160,000**)	貸	60,000
	5	B商店に商品売上	(**45,000**)		(**貸**)	(**イ15,000**)

補足　為替手形

【重要性：C】

（1）為替手形とは？

為替手形とは、振出人が名宛人（支払人、引受人）に対して満期日（または支払日）に手形金額（または額面金額）を受取人に支払うことを依頼する証券です。名宛人は為替手形の支払を承認（これを引受といいます）して、引受欄に署名することで支払人となります。したがって、名宛人は支払人なので「**支払手形**」勘定（**負債**）で処理し、受取人は「**受取手形**」勘定（**資産**）で処理します。簡略化した為替手形の見本は次のとおりです。

為　替　手　形

支払人(引受人)　C商店殿

金額　1,000,000円

支払期日
2030年×月×日

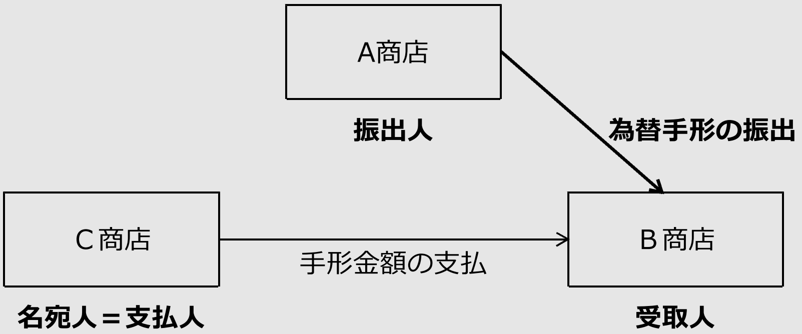
受取人B商店殿へこの為替手形と引換えに上記金額を**お支払い下さい。**

振出日　2030年×月×日

振出人　A商店

引受2030年×月×日
C商店

下図を用いて説明すると、A商店はC商店に対して売掛金があり、B商店に対して買掛金があるとします。A商店は「C商店から売掛金の代金を回収し、そのお金でB商店への買掛金を支払う」代わりに、「C商店がB商店へ支払う」ことをC商店に依頼するのが為替手形です。



（２）為替手形の振出時の処理

① 振出人（Ａ商店）

例題１　Ｂ商店に対する買掛金2,000円の支払のために、売掛金がある得意先Ｃ商店を名宛人、仕入先Ｂ商店を受取人とする為替手形を振り出した。

為替手形の振出人（Ａ商店）は、受取人（Ｂ商店）に対する買掛金を名宛人（Ｃ商店）にある売掛金を受け取る代わりに手形金額を支払ってもらいます。したがって、「買掛金」勘定（負債）の減少と「売掛金」勘定（資産）の減少として処理します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
買　　掛　　金	**2,000**	**売　　掛　　金**	**2,000**

② 名宛人（Ｃ商店）

例題２　買掛金のあるＡ商店から、Ｂ商店を受取人とする為替手形2,000円の引き受けを求められ、これを引き受けた。

為替手形の名宛人（Ｃ商店）は、振出人（Ａ商店）に対する買掛金を支払う代わりに、手形金額を支払うという負債が増加しました。したがって、「買掛金」勘定（負債）の減少と「支払手形」勘定（負債）の増加として処理します。なお、支払手形が増加しますので、支払手形記入帳に記帳します。

借 方 科 目	金　　額	貸 方 科 目	金　　額
買　　掛　　金	**2,000**	**支　払　手　形**	**2,000**

なお、支払手形記入帳への記載は以下となります。

支　払　手　形　記　入　帳

日付		手形種類	手形番号	摘　要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
?	?	為手	?	買 掛 金	B商店	A商店	?	?	?	?	?銀行	2,000			

③　受取人（Ｂ商店）

例題３　**売掛金のあるＡ商店から、Ｃ商店を名宛人とする為替手形2,000円を受け取った。**

為替手形の受取人（Ｂ商店）は、振出人（Ａ商店）に対する売掛金の代金を受け取る代わりに、手形金額を受け取るという資産が増加しました。したがって、「売掛金」勘定（資産）の減少と「受取手形」勘定（資産）の増加として処理します。なお、受取手形が増加しますので、受取手形記入帳に記帳します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
受取手形	**2,000**	**売掛金**	**2,000**

なお、受取手形記入帳への記載は以下となります。

受取手形記入帳

日付		手形種類	手形番号	摘要	支払人	振出人または裏書人	振出日		満期日		支払場所	手形金額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘要
?	?	為手	?	売掛金	C商店	A商店	?	?	?	?	?銀行	2,000			

（３）為替手形の満期時の処理

① 振出人（Ａ商店）

例題４　名宛人Ｃ商店、受取人Ｂ商店として振り出した為替手形2,000円の満期日が到来し、無事決済された。

為替手形の振出人（Ａ商店）は、振り出した為替手形の満期日に仕訳はありません。

② 名宛人（Ｃ商店）

例題５　引き受けたＢ商店を受取人とする為替手形2,000円を当座により支払った。

為替手形の名宛人（Ｃ商店）は、手形金額を支払うと支払手形という負債が減少するので「支払手形」勘定（負債）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
支払手形	**2,000**	**当座預金**	**2,000**

③ 受取人（Ｂ商店）

例題６　以前受け取った為替手形2,000円が決済され、代金は当座に預け入れた。

為替手形の受取人（Ｂ商店）は、手形金額を受け取ると受取手形という資産が減少するので「受取手形」勘定（資産）の減少として処理します。

借方科目	金額	貸方科目	金額
当座預金	**2,000**	**受取手形**	**2,000**

（４）まとめ

問題の文章の文末に着目して処理を判断して下さい。

「為替手形を**振り出した**」＝ 振出人 → 受取手形・支払手形勘定は使わない。
「為替手形を**引き受けた**」＝ 名宛人 → 支払手形勘定を使う。
「為替手形を**受け取った**」＝ 受取人 → 受取手形勘定を使う。

（５）約束手形と為替手形のまとめ

	名宛人	振出人
約束手形	**受取人**	**支払人**
為替手形	**支払人**	**－**

試験対策問題６－２　**為替手形を引き受けた人は、手形債務を負うことになるので、その債務額を（　　）勘定の貸方に記入する。**

・解答　支払手形

試験対策問題６－３　九州商店（個人商店）における下記の買掛金勘定、仕入帳、支払手形記入帳によって、以下の各問いに答えなさい。

（ア）１月８日に減少した買掛金はどの商店に対するものか、番号を記入しなさい。

　　１．A商店　　２．B商店

（イ）支払手形記入帳の（イ）の金額を求めなさい。

（ウ）1月11日にC商店から仕入れた商品代金のうち現金で支払った金額を答えなさい。

買　　掛　　金

1/8	支払手形	5,000	1 / 1	前期繰越	40,000
			11	仕　　入	15,000

仕　　入　　帳

日	付	摘　　要		内　　訳	金　　額
1	9	D商店	約　手		
		甲商品　300個	@30		9,000
	11	C商店	現金・掛け		
		乙商品　200個	@90		18,000

支　払　手　形　記　入　帳

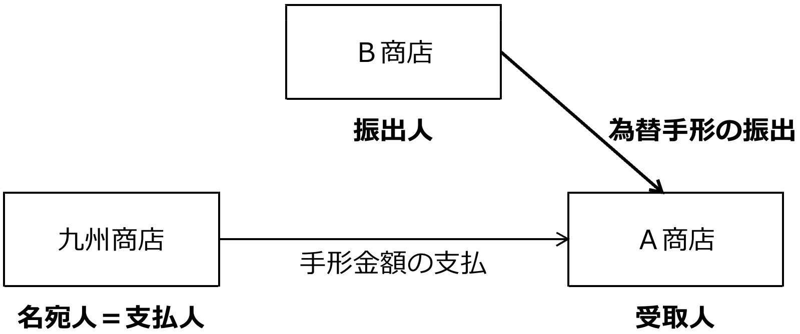
日付		手形種類	手形番号	摘　要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
1	8	為手	2	買 掛 金	A商店	B商店	1	8	3	8	x銀行	5,000			
	9	約手	23	仕　　入	D商店	当 店	1	9	2	9	x銀行	(イ)			

・解答　（ア）２　　　（イ）9,000円　　　（ウ）3,000円

・解説

（ア）について

「買掛金」勘定の借方「1/8 支払手形 5,000」より、買掛金の減少は支払手形の増加によることがわかります。次に、支払手形記入帳の１月８日は、為替手形であるため、振出人Ｂ商店の買掛金を決済するために、当該為替手形を引き受けたことがわかります。したがって、１月８日に減少した買掛金は、「２．Ｂ商店」に対するものとなります。



（イ）について

仕入帳より、１月９日に約束手形を振り出して商品仕入9,000円を行ったことがわかります。したがって、（イ）に該当する金額は9,000円となります。

（ウ）について

仕入帳より、１月11日に現金支払いと掛けにより商品仕入18,000円を行ったことがわかります。また、「買掛金」勘定の貸方「1/11 仕入 15,000」より、商品仕入18,000円のうち、買掛金は15,000円であったことがわかります。したがって、（ウ）に該当する金額は3,000円となります。

なお、本問における仕訳は以下となります。

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1/8	**買掛金**	**5,000**	**支払手形**	**5,000**
1/9	**仕入**	**9,000**	**支払手形**	**9,000**
1/11	**仕入**	**18,000**	**買掛金**	**15,000**
			現金	**3,000**

また、支払手形記入帳の空欄を記入したものは以下となります。

支 払 手 形 記 入 帳

日付		手形種類	手形番号	摘　要	受取人	振出人	振出日		満期日		支払場所	手　形金　額	てん末		
							月	日	月	日			月	日	摘　要
1	8	為手	2	買 掛 金	A商店	B商店	1	8	3	8	x銀行	5,000			
	9	約手	23	仕　　入	D商店	当 店	1	9	2	9	x銀行	**(イ)** **9,000**			